

国語(現代文)

東京大学 (前期・理科) 1/3

<総括>

文科	出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科	出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

テクノロジーが人間の倫理の虚構性を暴き、人間の倫理を変質させていくことを論じた文章。昨年度よりも本文の抽象度が高くなった。設問の方では、例年六題出題されていたが、二行の説明問題が一題減となり、全体で五題の出題となった。設問数は減ったものの、より丁寧な説明を作成することが求められているため、全体として難化したと言えるだろう。

<本文分析>

大問番号	第一問
出典 (作者)	伊藤徹『芸術家たちの精神史—日本近代化を巡る哲学—』(ナカニシヤ出版、2015年刊)の第六章〈「神々の永遠の争い」を生きる〉の一節
頻出度合 ・的中等	入試であまり出題されない著者であるが、東大では2004年度の第一問で同一著者の文章が出題されている。
分量 前年比較	分量 (減少・変化なし・増加) 約3180字。昨年よりも約680字増。
難易 前年比較	難易 (易化・変化なし・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第一問	現代社会論	(一)	記述	やや難	「科学技術の展開」がどのような点で「不気味」と言えるのかを説明する。
		(二)	記述	やや難	「単なる道具としてニュートラルなものに留まりえない」ということが指している内容を押さえた上で、そのことと科学技術が『『すべきこと』から離れている』こととの因果関係を説明する。
		(三)	記述	標準	傍線部直前の「そういう意味で」が指している内容と、直後の段落の具体例の内容を踏まえて、「虚構」性を説明するとともに、「明らかだ」と言える理由も含める。
		(四)	記述	やや難	従来の倫理基準のあり方と、それが「テクノロジー」によってどのように変質しているのかを、「本文全体の論旨を踏まえ」て説明する。
		(五)	記述	標準	一昨年、昨年度同様、三問の出題だった。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

様々なジャンルの評論を読み、そのテーマに関する理解を深めるとともに、文章の論理構造をしっかりと把握できるようにしたい。
書くべき要素を的確に捉え、簡潔明解にまとめる練習をしておこう。

国語 (古文)

東京大学 (前期・理科) 2/3

<総括>

文科	出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科	出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

オーソドックスな出題であった。

<本文分析>

大問番号	第二問
出典 (作者)	『源氏物語』 真木柱
頻出度合 ・的中等	頻出出典。この箇所の出題は稀。
分量 前年比較	分量 (減少・変化なし・増加) 約940字。前年より約40字増。
難易 前年比較	難易 (易化・変化なし・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第二問 (文科)	物語	(一)			
		ア	記述	易	現代語訳。
		イ	記述	やや易	現代語訳。
		オ	記述	標準	現代語訳 (「めや」は反語を表している)。
		(二)	記述	標準	心情説明。
第二問 (理科)	物語	(三)	記述	難	心情説明。
		(四)	記述	やや難	内容説明 (「なし (為す)」の語義に注意)。
		(五)	記述	やや難	内容説明 (設問に「ここでは」とあることに注意)。
		(一)			
		ア	記述	易	現代語訳。
	イ	記述	やや易	現代語訳。	
	エ	記述	標準	現代語訳 (「めや」は反語を表している)。	
	(二)	記述	難	心情説明。	
	(三)	記述	やや難	内容説明 (設問に「ここでは」とあることに注意)。	

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

古文を読解する上で必要な知識項目を習得するとともに、文章を一語一語丁寧に読解する訓練をしておくこと。正確な現代語訳をするために、単語・文法の学習を厳密に行っておくことが大切である。また、解答を簡潔にまとめる練習や和歌の学習も必要。

国語 (漢文)

東京大学 (前期・理科) 3/3

<総括>

文科 出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間150分
理科 出題数	現代文1題・古文1題・漢文1題	試験時間100分

例年通り文理共通問題であり、昨年は漢詩が出題されたが、本年は散文であった。一昨年は理科では第二段落が省略されていたが、本年は昨年と変わらず理科での省略はなかった。設問数については昨年は枝間を含めて文科6題、理科4題であったが、本年は枝間を含めて文科6題、理科5題であった。昨年同様に空欄補充の設問は出題されなかった。また本年は、設問に関わる部分で送り仮名の省略が二箇所あった。
例年通り、答案を作成する際に内容を適切にまとめるのは容易ではない。

<本文分析>

大問番号	第三問	
出典 (作者)	劉元卿『賢奕編』	
頻出度合 ・的中等	稀。	
分量 前年比較	分量 (減少・変化なし・増加) 文科は169字。昨年は218字 (昨年より49字減)。理科は169字。昨年は218字 (昨年より49字減)。	
難易 前年比較	難易 (易化・変化なし・難化)	

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)
第三問 (文科)	説話	(一)			
		a	記述	やや易	現代語訳。「神」「於」に注意する。
		b	記述	標準	現代語訳。「須」に注意する。
		c	記述	易	現代語訳。「不如」に注意する。
		(二)	記述	標準	理由説明。傍線部を含む会話箇所を要領よくまとめる。
		(三)	記述	やや易	現代語訳。強意の「又」と「如〜何」に注意する。
		(四)	記述	標準	内容説明。「東里丈人」の発言と、第一段落の内容との対応に注意する。
第三問 (理科)	説話	(一)			
		a	記述	やや易	現代語訳。「神」「於」に注意する。
		b	記述	標準	現代語訳。「須」に注意する。
		c	記述	易	現代語訳。「不如」に注意する。
		(二)	記述	やや易	現代語訳。強意の「又」と「如〜何」に注意する。
		(三)	記述	標準	内容説明。「東里丈人」の発言と、第一段落の内容との対応に注意する。

※難易度は5段階「難・やや難・標準・やや易・易」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

本格的な漢文の読解力が要求されているので、基本句形や重要単語の習得と十分な問題演習が必要である。加えて漢文の背景となる思想や歴史などの知識も学んでおきたい。
細心の注意を払って文脈を読み取り、簡潔で過不足のない答案を作成する訓練を怠らないこと。
漢詩もたびたび出題されるので、文科、理科ともに漢詩の対策も必須である。